



平成26年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年11月11日
東

上場会社名 株式会社アサツー ディ・ケイ 上場取引所
 コード番号 9747 URL <http://www.adk.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 植野 伸一
 問合せ先責任者 (役職名) 経理局長 (氏名) 宇野沢 史紀 (TEL) (03) 6830-3867
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期第3四半期の連結業績 (平成26年1月1日～平成26年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第3四半期	258,293	1.8	2,581	140.5	4,689	57.2	1,920	301.1
25年12月期第3四半期	253,646	△2.5	1,073	△49.4	2,983	△19.9	478	△74.1

(注) 包括利益 26年12月期第3四半期 684百万円(△96.4%) 25年12月期第3四半期 19,135百万円(159.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第3四半期	45.89	45.84
25年12月期第3四半期	11.40	11.40

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第3四半期	222,624	125,497	56.0
25年12月期	228,170	130,972	56.9

(参考) 自己資本 26年12月期第3四半期 124,762百万円 25年12月期 129,873百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	10.00	—	131.00	141.00
26年12月期	—	10.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成25年12月期の期末配当金の内訳 普通配当19円00銭、特別配当112円00銭

平成26年12月期の期末配当予想の額は未定(ただし1株当たり10円以上)であります。

3. 平成26年12月期の連結業績予想 (平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	348,800	1.8	3,700	167.5	5,600	29.4	2,770	△19.2	66.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

26年12月期3Q	42,155,400株	25年12月期	42,155,400株
26年12月期3Q	293,685株	25年12月期	333,481株
26年12月期3Q	41,842,644株	25年12月期3Q	41,982,953株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 当社は、従業員持株E S O P信託制度を導入しており、当該信託にかかる従業員持株E S O P信託口が所有する当社株式については、四半期連結財務諸表において自己株式として計上しております。そのため、上記の期末自己株式数には従業員持株E S O P信託口が所有する当社株式の数が含まれており、その株式数は、26年12月期3Qが213,600株、25年12月期が255,200株であります。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、四半期決算短信【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)の我が国経済は、政府および日本銀行の継続的な経済対策や金融政策を背景に、企業収益の改善や設備投資の持ち直しがみられるなど、緩やかな回復基調となりました。個人消費においては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要や雇用・所得環境の改善があった一方で、消費税率引き上げ後に低下した消費マインドの回復が一部において遅れるなど、予断を許さない状況で推移しました。

広告業界においては、経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、今年度の広告業における売上高は、消費税率引き上げ直後の平成26年4月を除き前年同月比でプラスとなるなど、堅調に推移しています。

このような環境の下、当社グループは消費者にメッセージを伝えるだけでなく、具体的に消費者を動かす「コンシューマー・アクティベーション・カンパニー」への転換を目指す「VISION 2020」を掲げ、コンシューマー・アクティベーション実現に向けたソリューション基盤の整備や収益管理体制の厳格化、国内外のグループ会社との連携強化、得意とするコンテンツビジネスの拡大など、ビジネスモデルの複合化およびグループ基盤の構築に向けた施策を推し進めました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,582億93百万円(前年同期比1.8%増)、売上総利益は357億23百万円(前年同期比7.5%増)、営業利益は25億81百万円(前年同期比140.5%増)となりました。これに受取配当金をはじめとした営業外収益22億80百万円および営業外費用1億73百万円を計上した結果、経常利益は46億89百万円(前年同期比57.2%増)となりました。投資有価証券売却益などの特別利益を11億15百万円計上した一方で、当社単体をはじめとしたグループの事務所移転費用などの特別損失を20億23百万円計上した結果、税金等調整前四半期純利益は37億80百万円(前年同期比189.4%増)となり、四半期純利益は19億20百万円(前年同期比301.1%増)となりました。

当第3四半期連結累計期間の報告セグメント別の業績の詳細は、以下のとおりであります。

(広告業)

広告業における外部顧客への売上高は2,550億55百万円(前年同期比1.9%増)、セグメント利益は29億59百万円(前年同期比68.3%増)となりました。

売上高については、総体として前年同期比で増収となりました。地域別では、当社において広告出稿が増加するとともに、制作系子会社が伸長したこと、さらにはデジタル系子会社の貢献により、当社および国内子会社は増収となりました。海外については、タイ子会社が貢献しアジア・欧米子会社が堅調に推移した一方で、中国圏子会社が苦戦した結果、海外子会社全体で減収となりました。セグメント利益については、中国圏子会社の不振により海外子会社全体で減益となりましたが、当社単体および国内子会社が増益となった結果、総体として増益となりました。

なお、グループの中核である当社単体の業績、業種別・区分別売上高は以下のとおりであります。

売上高は2,257億54百万円(前年同期比2.5%増)、売上総利益は260億29百万円(前年同期比8.3%増)、営業利益は24億32百万円(前年同期比102.8%増)となりました。賞与引当金繰入額および貸倒引当金繰入額など、一部の販管費の増加がありました。売上高の増加に加え売上総利益率改善の施策が奏功し、増益となりました。

業種別売上高では、化粧品・トイレタリー、官公庁・団体、外食・各種サービス、流通・小売業、金融・保険などの業種の広告主からの出稿が増加した一方で、食品、教育・医療サービス・宗教、飲料・嗜好品、家庭用品、不動産・住宅設備などの業種の広告主からの出稿が減少しました。

区分別売上高では、テレビ広告、マーケティング・プロモーション、デジタルメディア広告の区分において前年同期比で増収となった一方で、制作その他、OOHメディア広告、新聞広告、雑誌広告、ラジオ広告の区分において前年同期比で減収となりました。

当社単体の区分別売上高、その構成比と前年同期比の増減率は以下のとおりであります。

区分別売上 (注)		当期売上高 (百万円)	構成比 (%)	前年同期比 (%)
メディア	雑誌広告	9,492	4.2	△7.4
	新聞広告	14,029	6.2	△9.0
	テレビ広告	103,859	46.0	4.4
	ラジオ広告	2,302	1.0	△1.5
	デジタルメディア広告	11,037	4.9	36.1
	OOHメディア広告	5,820	2.6	△23.1
小計		146,541	64.9	2.4
メディア以外	マーケティング・プロモーション	48,256	21.4	9.9
	制作その他	30,956	13.7	△6.5
小計		79,213	35.1	2.8
合計		225,754	100.0	2.5

- (注) 1 広告市場の成熟化やメディア環境の多角化に伴い、当社は広告主にクロス・コミュニケーション・プログラムを提供しており、媒体別の売上を厳密に分別することが困難な場合があります。従って、上記の区分別売上は厳密に媒体別の売上を反映していないことがあります。
- 2 テレビには、タイム、スポット、コンテンツが含まれます。
- 3 デジタルメディアには、インターネット、モバイル関連メディアが含まれます。
(WEBサイト制作・システム開発などデジタルソリューションは「マーケティング・プロモーション」に含まれます)
- 4 OOH (アウト・オブ・ホーム) メディアには、交通広告、屋外広告、折込広告などが含まれます。
- 5 マーケティング・プロモーションには、マーケティング、コミュニケーション・プランニング、プロモーション、イベント、PR、博覧会事業、デジタルソリューションなどが含まれます。

(その他の事業)

その他の事業における外部顧客への売上高は32億38百万円 (前年同期比1.3%減)、セグメント損失は3億78百万円 (前年同期は6億85百万円の損失) となりました。

主たる事業である雑誌・書籍の出版・販売事業においては、出版市場全体の縮小に伴い収益確保が困難な状況が継続していることから、営業損失となりましたが、配本数適正化による返本高の減少および販管費の抑制に努めた結果、前年同期比で赤字幅は縮小しました。

(海外売上高)

当社グループの海外売上高は、すべて広告業のものであり、当第3四半期連結累計期間の売上高の8.2% (前年同期は8.6%) となりました。

(2) 財政状態に関する説明

前連結会計年度末(平成25年12月31日)と比較した当第3四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりです。

資産合計は、売掛債権の回収が進んだことに加え、時価の下落に伴う投資有価証券の減少などにより、前連結会計年度末に比べ55億45百万円減少の2,226億24百万円となりました。

負債合計は、引当金の増加などがあった一方で、未払法人税等の減少などにより、前連結会計年度末に比べ70百万円減少の971億26百万円となりました。

純資産合計は1,254億97百万円、少数株主持分および新株予約権を除いた自己資本比率は56.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、当社単体を中心に概ね堅調に推移いたしました。今後においても景気回復基調は変わらず、中長期的な広告市況は底堅く推移すると予想されます。

一方で、短期的には原材料の輸入価格上昇に加え、欧州における景気後退懸念、中国をはじめとする新興国経済の成長鈍化や、消費税率引き上げに伴う国内景気への影響や広告主の業績動向など、広告市況への影響を見極める必要があるとともに、国内外の子会社における業績改善策の進捗状況等に鑑み、連結通期業績予想値につきましては、平成26年2月14日に公表した業績予想を変更しておりません。

引き続き、メディア環境や消費者行動の変化をとらえたコミュニケーションプログラムの開発・提供を推し進め、競争力・収益性を向上させてより一層の業績拡大を目指してまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用の計算にあたっては、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,554	26,245
受取手形及び売掛金	81,659	77,440
有価証券	11,371	10,487
たな卸資産	8,469	8,948
その他	2,391	2,826
貸倒引当金	△514	△695
流動資産合計	128,932	125,252
固定資産		
有形固定資産	3,392	4,810
無形固定資産	2,132	1,708
投資その他の資産		
投資有価証券	84,829	82,257
その他	9,694	9,317
貸倒引当金	△810	△721
投資その他の資産合計	93,713	90,852
固定資産合計	99,238	97,372
資産合計	228,170	222,624

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	65,997	65,823
短期借入金	—	52
1年内返済予定の長期借入金	164	164
未払法人税等	1,950	853
引当金	892	2,222
その他	7,076	7,215
流動負債合計	76,080	76,331
固定負債		
長期借入金	82	—
引当金	1,688	1,567
その他	19,346	19,227
固定負債合計	21,116	20,795
負債合計	97,197	97,126
純資産の部		
株主資本		
資本金	37,581	37,581
資本剰余金	11,982	11,982
利益剰余金	44,303	40,483
自己株式	△651	△581
株主資本合計	93,216	89,465
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,142	33,531
繰延ヘッジ損益	1	△1
為替換算調整勘定	1,513	1,766
その他の包括利益累計額合計	36,657	35,296
新株予約権	21	35
少数株主持分	1,077	699
純資産合計	130,972	125,497
負債純資産合計	228,170	222,624

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	253,646	258,293
売上原価	220,401	222,569
売上総利益	33,244	35,723
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	16,446	16,295
賞与引当金繰入額	1,149	1,663
役員退職慰労引当金繰入額	27	11
貸倒引当金繰入額	△302	158
その他	14,850	15,012
販売費及び一般管理費合計	32,171	33,141
営業利益	1,073	2,581
営業外収益		
受取利息	192	185
受取配当金	1,190	1,439
持分法による投資利益	109	140
その他	488	514
営業外収益合計	1,981	2,280
営業外費用		
支払利息	9	6
投資事業組合運用損	4	58
保険解約損	12	40
その他	45	68
営業外費用合計	71	173
経常利益	2,983	4,689
特別利益		
投資有価証券売却益	1,016	1,080
その他	33	34
特別利益合計	1,050	1,115
特別損失		
減損損失	—	207
投資有価証券売却損	117	2
投資有価証券評価損	22	78
特別退職金	2,454	494
事務所移転費用	56	1,077
その他	75	163
特別損失合計	2,727	2,023
税金等調整前四半期純利益	1,306	3,780
法人税等	811	1,760
少数株主損益調整前四半期純利益	494	2,020
少数株主利益	15	99
四半期純利益	478	1,920

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	494	2,020
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,350	△1,611
繰延ヘッジ損益	1	△2
為替換算調整勘定	1,289	277
持分法適用会社に対する持分相当額	—	1
その他の包括利益合計	18,641	△1,335
四半期包括利益	19,135	684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,079	559
少数株主に係る四半期包括利益	56	125

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	広告業	その他の事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	250,365	3,280	253,646	—	253,646
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13	1	15	△15	—
計	250,379	3,282	253,661	△15	253,646
セグメント利益又は損失(△)	1,758	△685	1,073	0	1,073

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額の主な内容は、セグメント間取引の消去および未実現利益の控除によるものであります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	広告業	その他の事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	255,055	3,238	258,293	—	258,293
セグメント間の内部売上高 又は振替高	18	34	52	△52	—
計	255,073	3,273	258,346	△52	258,293
セグメント利益又は損失(△)	2,959	△378	2,581	0	2,581

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額の主な内容は、セグメント間取引の消去および未実現利益の控除によるものであります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。